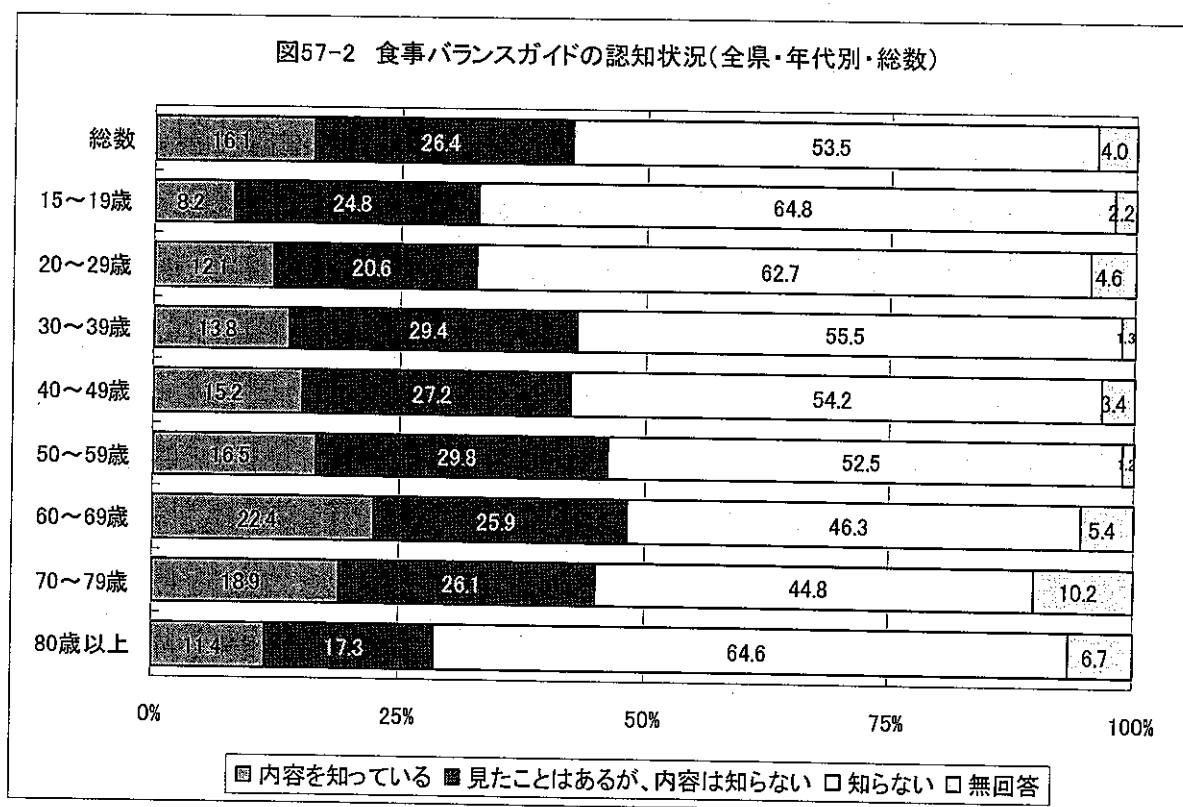
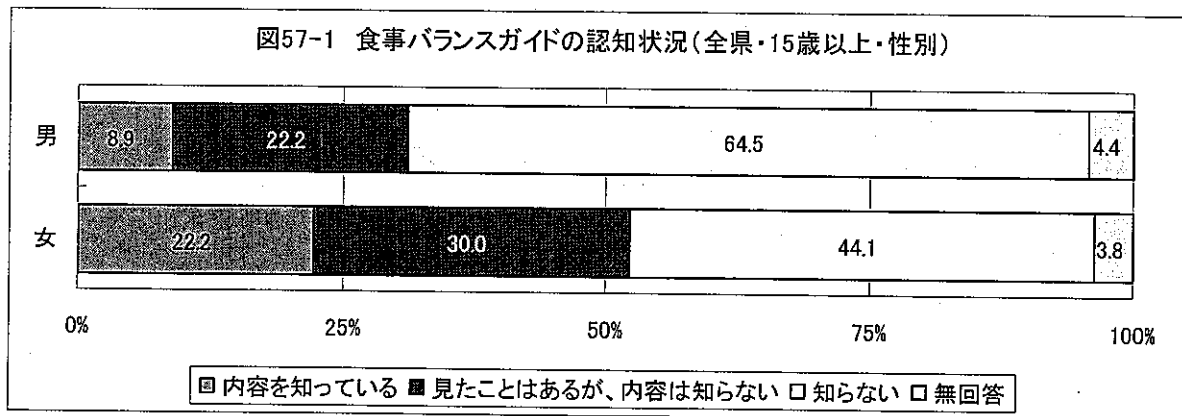


5 食環境

(1) 食事バランスガイドの認知

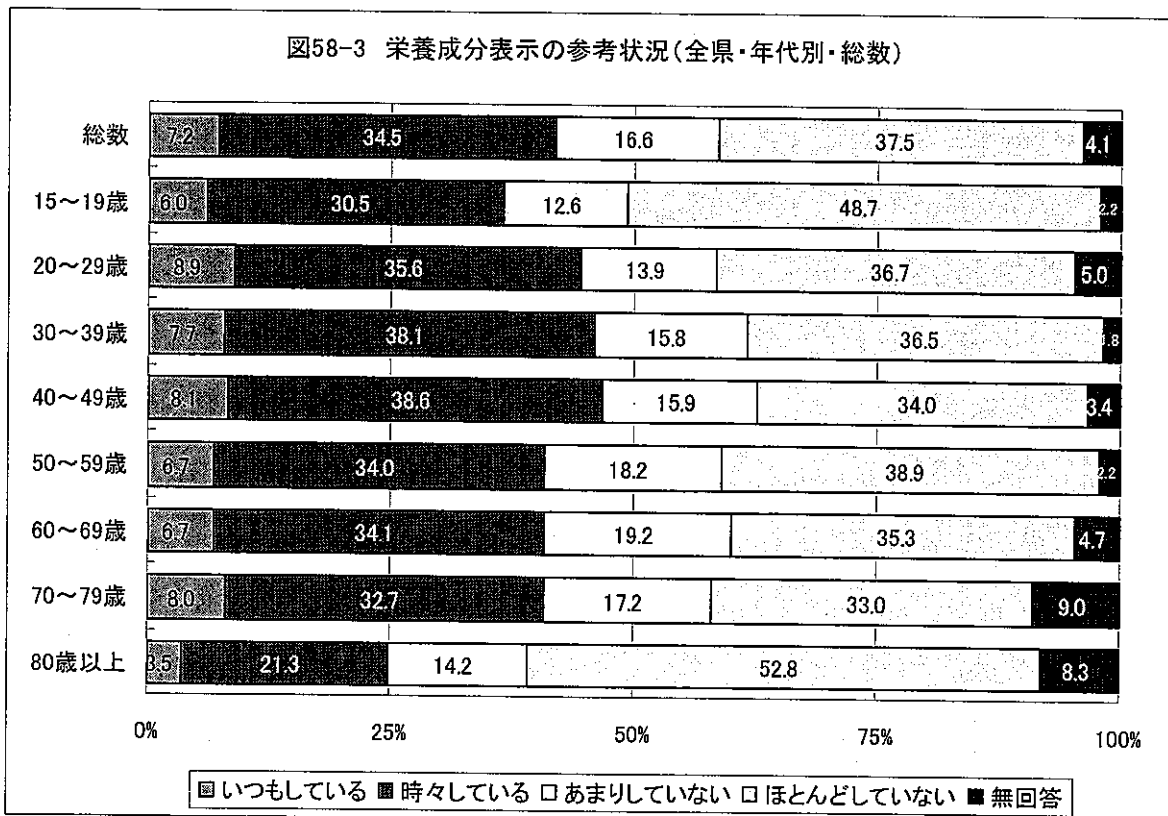
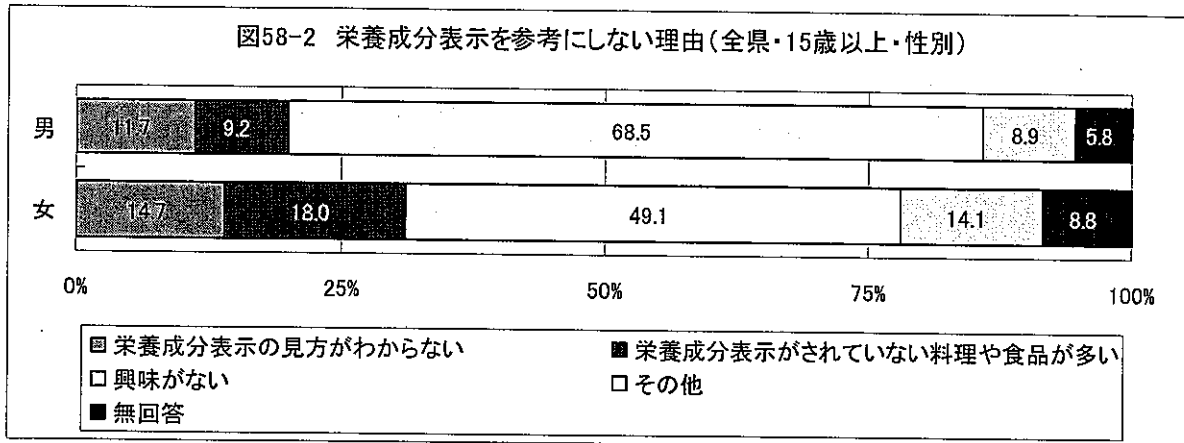
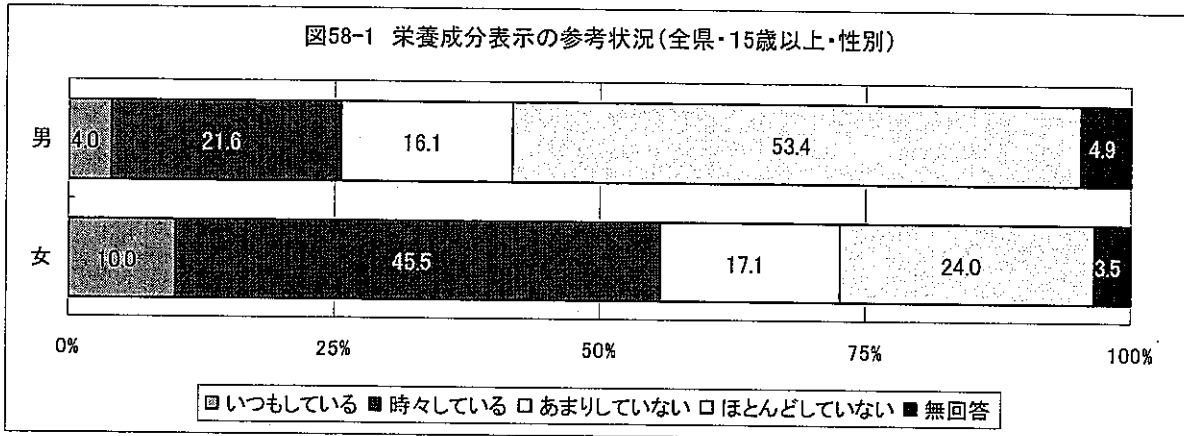
“内容を知っている”人が、男性 8.9%、女性 22.2%であった。

しかし、“知らない”人が、全体で 53.5%であり、どの年代においても半数近くであった。



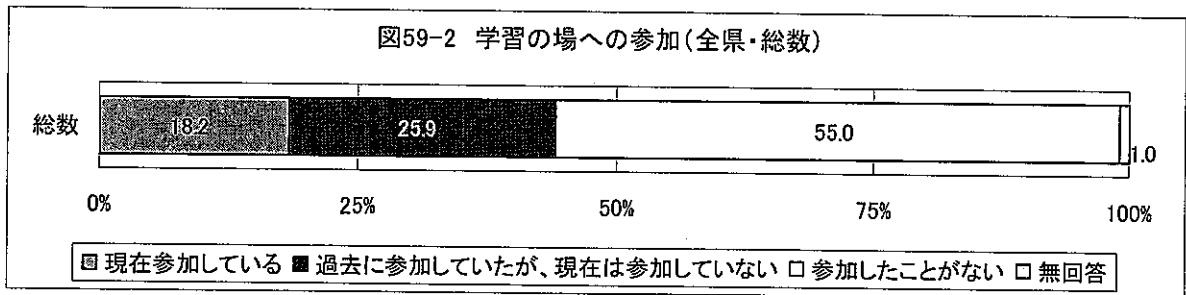
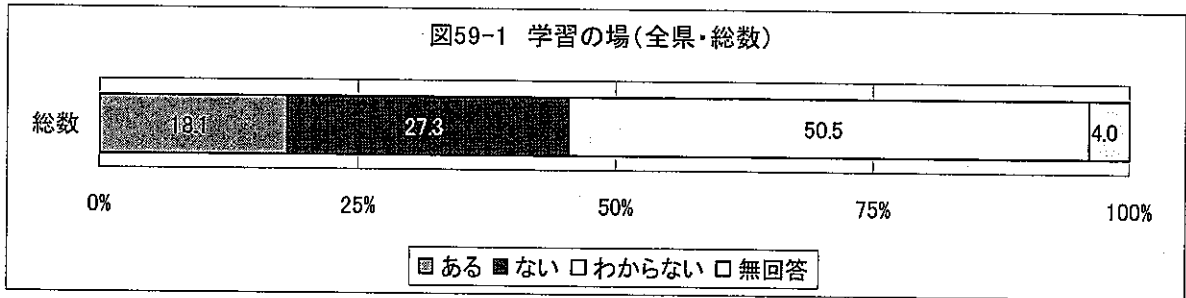
(2) 栄養成分表示の利用状況

外食や食品を購入する時に、栄養成分表示を“参考にしている”人は、男性 25.6%、女性 55.5%であった。



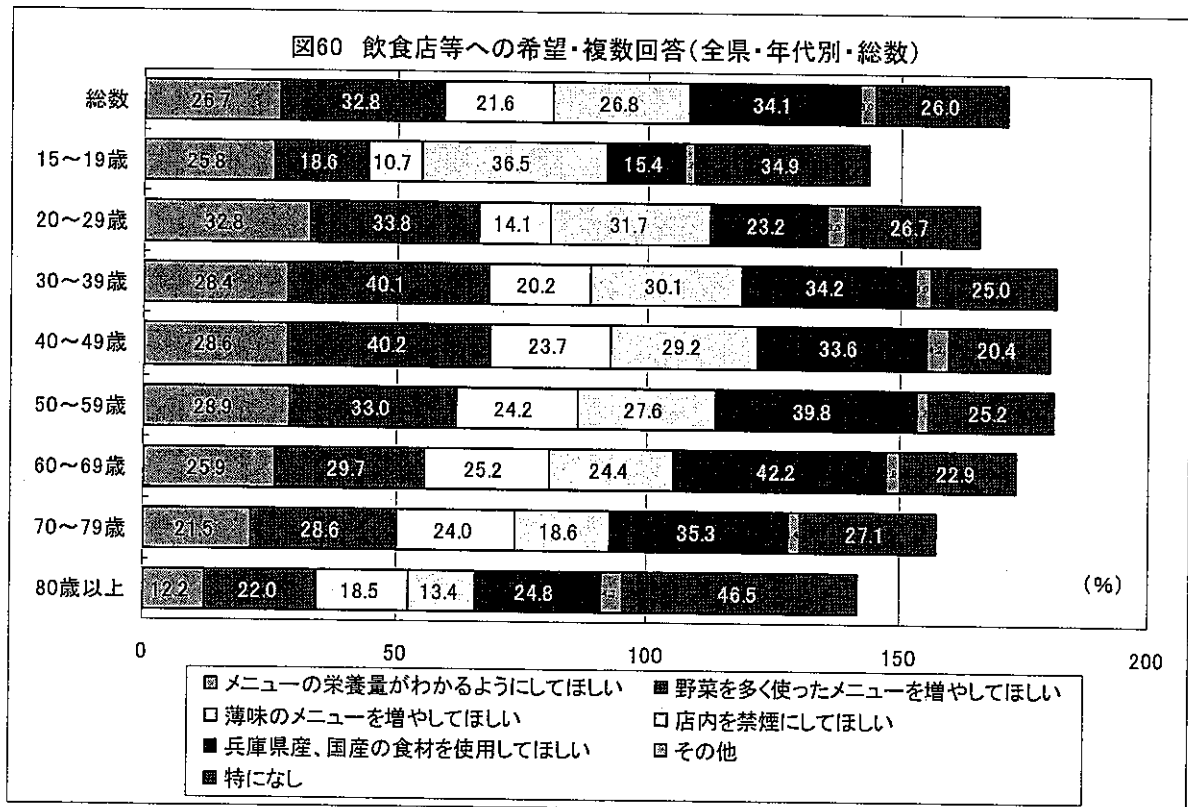
(3) 学習の場への参加

地域や職場で“健康や栄養に関する活動や自主的な集まりがあることを知っている”人は、18.1%、そのうち、その集まりに“参加したことがある”人は44.1%、“現在も参加している”人は18.2%であった。



(4) 飲食店等への希望

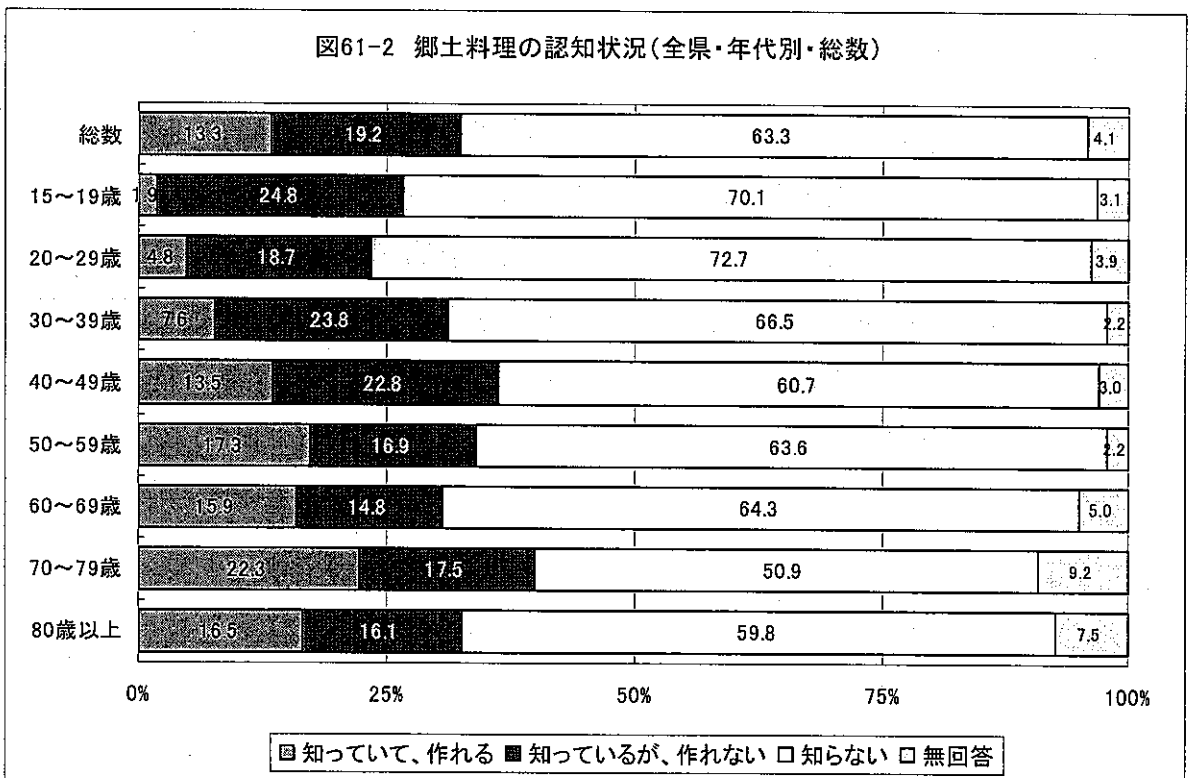
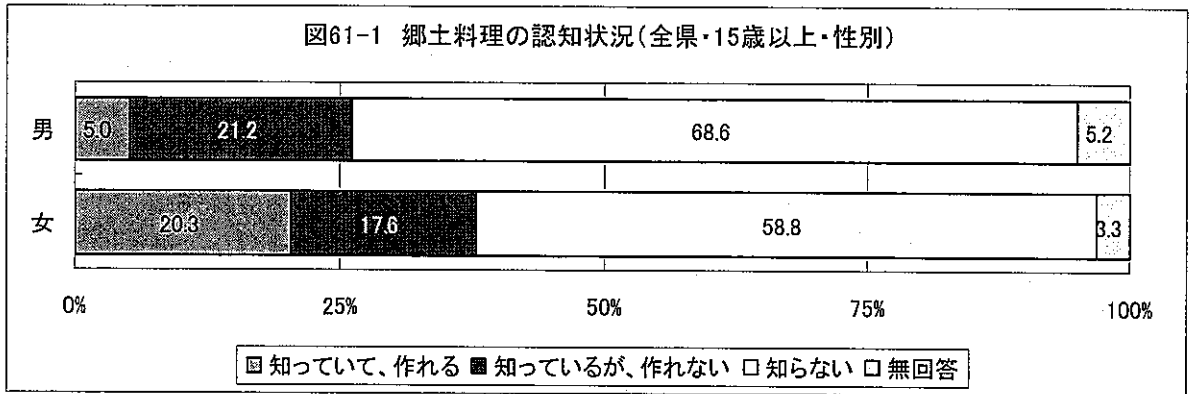
“兵庫県産、国産の食材を使用してほしい”が34.1%、“野菜を多く使ったメニューを増やしてほしい”が32.8%であった。年代別の1位は、15～19歳が“店内を禁煙にしてほしい”、20～40歳代は“野菜を多く使ったメニューを増やしてほしい”、50歳～70歳代は、“兵庫県産、国産の食材を使用してほしい”であった。



(5) 郷土食の認知

住んでいる地域の郷土料理を”知っている”人が、32.5%、そのうち、“作ることができる”人が、13.3%であった。

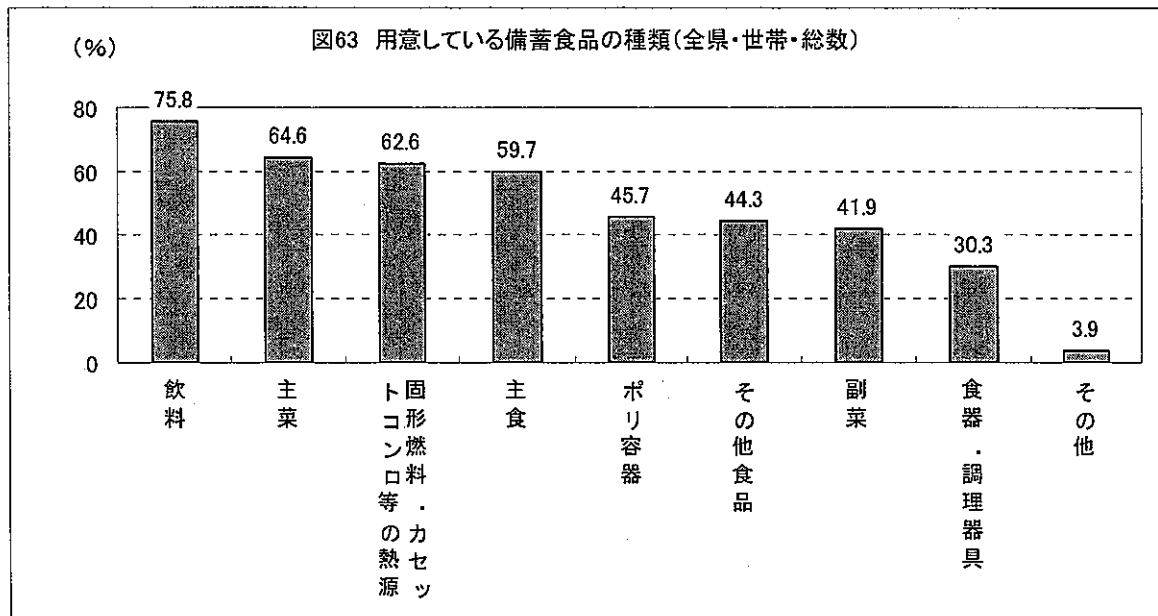
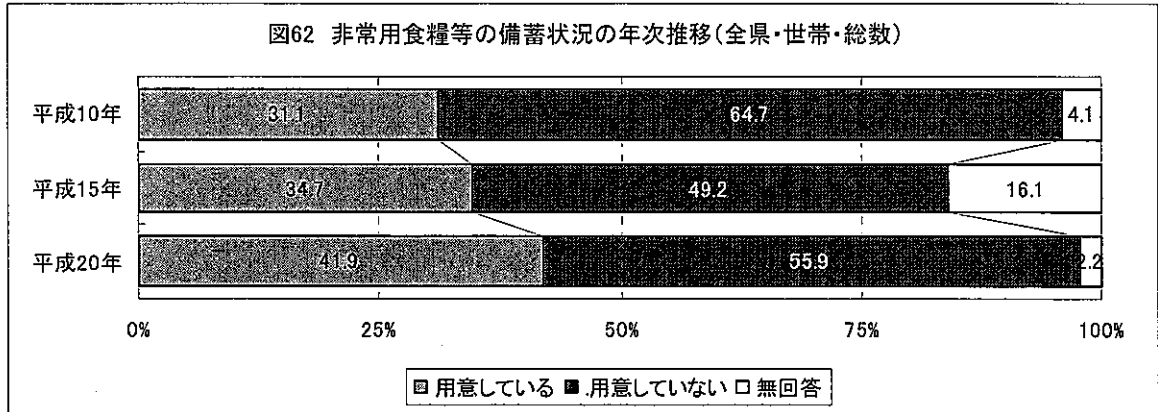
年代別では、“知っている、作れる”人が、70歳代が22.3%と最も多かった。



※郷土料理とは、住んでいる地域特有の料理。その地域の特産物を使った料理、伝統的あるいは独自の調理法で作られ、食べ継がれてきた料理をいいます。

(6) 非常時への食の備え

“用意している”世帯が41.9%であり、平成10年より10.8ポイント増加している。また、圏域別では、神戸、阪神南、阪神北の順に多く、平成15年と比較すると、どの圏域においても増加していた。備蓄している内容は、飲料水、主菜となる食品、カセットコンロ等の熱源、主食となる食品の順に多かった。



◆表9 非常用食料等の備蓄状況の年次推移(圏域別)

| 圏域名 | 平成15年 | | 平成20年 | |
|-----|-------|----------|-------|----------|
| | % | 対象世帯数(人) | % | 対象世帯数(人) |
| 総数 | 34.7% | 2876 | 41.9% | 2185 |
| 神戸 | 55.7% | 106 | 59.8% | 122 |
| 阪神南 | 47.1% | 376 | 54.3% | 219 |
| 阪神北 | 46.1% | 373 | 51.3% | 271 |
| 東播磨 | 38.0% | 326 | 47.0% | 253 |
| 北播磨 | 26.3% | 335 | 41.9% | 222 |
| 中播磨 | 33.7% | 202 | 38.0% | 192 |
| 西播磨 | 23.6% | 394 | 32.1% | 243 |
| 但馬 | 27.4% | 281 | 31.5% | 216 |
| 丹波 | 23.3% | 180 | 35.6% | 219 |
| 淡路 | 32.7% | 303 | 32.9% | 228 |